2　地理歴史・公民

学校番号	１０７

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	５単位	年次	３年次
使用教科書	詳説世界史　（山川出版）						
副教材等	最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 新世界史研究ノート「応用編」（啓隆社）／各国別書きこみ年表＆地図（山川）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の「流れ」をつかんで欲しい。
・「現在」を、歴史の「流れ」の中で理解し、「未来」を考えて欲しい。
・歴史的出来事の背景を考えるために、常に「なぜ」という意識をもってほしい。
・毎時間の授業を集中して受け、充実したノートをつくって欲しい。

2　学習の到達目標

・自ら学ぶ姿勢を養うとともに、学ぶ喜びを感じることができる。
・学んだこと、考察したことをまとめ、的確に表現することができる。
・諸資料を解読して、歴史的に考えることができる。
・世界の歴史と結びつけて、現在の諸課題を考察することができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史の通史に関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代社会における出来事を、歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート
	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	先史の世界・オリエントと地中海世界・アジア・アメリカの古代文明	・先史の世界 ・古代オリエント世界 ・ギリシア世界 ・アジアの古代文明 ・東アジア世界の形成	○	○	○	○ ○	a:「一つの世界」が生まれる以前、人類はどのような世界に生きていたのだろうか。農耕、牧畜が始まって以来、人類は環境に適応しながらそれぞれの地域で独自の世界を形成したことを考える b:地中海周辺地域の古代文明について考える c:ギリシア文明はポリスという独特の社会の仕組みからうまれ、奴隷制を経済基盤として古代民主政が発達したことの重大性を考察させる。 d:中国の殷、周、秦、漢時代を通じて２０世紀まで続く皇帝政治体制の基礎が固まったことを学習する。	定期考査 ワークシート

	オリエントと地中海世界・ヨーロッパ世界の形成と発展・アジア・アメリカの古代文明・内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・ローマ世界 ・西ヨーロッパ世界の成立 ・内陸アジア世界、東アジア世界の形成 ・インドの古代文明	○	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○	a 古代ローマが都市国家から帝国に発展する過程をダイナミックにとらえ、なぜ、偉大なローマ帝国が滅ばざるをえなかったのか、を考察する b:設定された時代の諸地域の特質を見いだし、世界商業の進展などに関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:北方民族と中国の関係に重点を置き中国の分裂（魏晋南北朝時代）から隋・唐に至る統一を理解させる。また、南アジアでの、今日のインドの骨格をなす宗教・社会・世界観の構成を学ぶ d:ゲルマン民族の移動から始まる西ヨーロッパ世界の成立、荘園制・封建制を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

2学期	ヨーロッパ世界の形成と発展・イスラーム世界の形成と発展	・西ヨーロッパ世界中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化 ・イスラーム世界の形成と発展 ・インド、東南アジア、アフリカのイスラーム化	○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	a：：中世ヨーロッパの十字軍とその影響、商業の発展と都市の成立、封建社会の崩壊について関心を持ち意欲的に知ろうとする b：７世紀から１６世紀にいたるイスラーム世界の展開をたどる。７世紀から約い世紀の間に中央アジアからイベリア半島にいたる大帝国を築き、１１世紀以降は北アフリカやインドでもイスラーム化がすすみ１３世紀以降には東南アジアにも浸透した。 c：設定された時代に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d：中世ヨーロッパの十字軍とその影響、商業の発展と都市の成立、封建社会の崩壊中世の文化について理解し、その知識を身につけている。	
	近世ヨーロッパ世界の形成・アジア諸地域の繁栄	・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパの主権国家体制 ・東アジア世界の自立化。モンゴルから明、清王朝時代	○ ○	 ○	○ ○	 ○ ○	a：大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b：モンゴル帝国がユーラシアの大半を統合する１３世紀、１４世紀からの明朝が広域的な朝貢体制を作り上げ、それに続き満州人の清朝の広大な支配を学ぶ。 c：設定された時代に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d：大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

3学期	近世ヨーロッパ世界の展開・近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立・欧米における近代国民国家の発展・アジア諸地域の動揺1	・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・トルコ、イラン世界の展開	○ ○	 ○ ○	 ○	 ○ ○ ○	a:17世紀の絶対王政の成立とその経済的背景、３０年戦争を経て、ヨーロッパにおける国際社会の成立などへの理解を深める。さらに市民革命がおこった背景とその経過を考察する。18世紀後期以降の諸地域世界の様子について、社会の変化と新たな社会の成立、ヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:17,18 世紀の絶対王政から市民革命の時代の諸地域世界の変貌の特質を見いだし、19世紀の世界の一体化と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:17,18 世紀の絶対王政の崩壊から市民革命の成立に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:チムール、オスマン、サファビー、ムガル帝国について学ぶ	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。